

# 関西医科大学 広報



総合医療センターホスピタルガーデンに寄贈されたモネ陶板画《睡蓮:緑のハーモニー》

## モチーフとなったモネ絵画が 池のほとりに。

Vol.63

### CONTENTS

トピックス：3学部オープンキャンパス	P.1
トピックス：国外臨床実習成果報告会	P.2
トピックス：名誉学長・名誉教授称号授与式	P.2

大学：令和4年度「学生からの教育評価」	P.5
大学：看護学部ホームカミングデー	P.7
病院：附属病院市民公開講座	P.12





## 令和5年度オープンキャンパス開催

右記の日程で  
オープンキャンパスを  
開催しました。

医学部

7/23<sub>日</sub>・8/5<sub>土</sub>

看護学部

4/23<sub>日</sub>・7/9<sub>日</sub>・8/6<sub>日</sub>・8/20<sub>日</sub>

リハビリ  
テーション学部

6/18<sub>日</sub>・7/23<sub>日</sub>・8/20<sub>日</sub>・9/3<sub>日</sub>

### 医学部 枚方キャンパス

医学部オープンキャンパスでは、全体説明会場の加多乃講堂で、医学部金子一成学部長による学部ガイダンス、入試センター中川淳センター長による入試概要説明等が行われました。また、同会場でのトークイベントでは、全体説明の司会も務めた在学生や本学を卒業した研修医が受験勉強や学生生活について自身の体験を語りました。

その他、在学生2名が学内施設を紹介するキャンパス見学や、シミュレーションセンター施設見学、受験相談、学生生活相談、学納金・奨学金相談といった各種個別相談、学食体験なども行われました。



「キャンパス/病院見学」では4年ぶりに附属病院内の見学を実施

### 看護学部 枚方キャンパス

看護学部オープンキャンパスでは、加多乃講堂での看護学部加藤令子学部長の挨拶、学部ガイダンス、入試・進路ガイダンス、看護学部棟での保健師/助産師のお仕事紹介、学生トーク、高機能シミュレータ実演や心肺蘇生法の体験などが行われました。学生トークでは学生生活や受験当時のことなど在学生のリアルな声に参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、体験ブースでは各種シミュレータの展示や体験が行われました。参加者は聴診器をつけて高機能シミュレータの心音を聞いたり、様々な状況に応じたシミュレータについて説明を受けたりするなど、入学後の学習がイメージできる内容となっていました。



心肺蘇生法を体験する参加者

### リハビリテーション学部 牧野キャンパス

リハビリテーション学部オープンキャンパスでは、学部紹介やミニ講義に加え、新企画として「入試対策説明会」が実施され、在学生が自身の受験時を振り返り、来場した受験生たちに勉強方法のコツや対策などをアドバイスしました。

テーピングや筋力の機能体験、動作解析体験、義手・手の装具体験や革細工製作体験など、それぞれの学科で模擬体験のブースも開設され、多くの参加者でにぎわいました。



入試対策のアドバイスをする学生スタッフ

## 国外臨床実習成果報告会

9月8日(金)17時から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、国外臨床実習成果報告会が開催され、約140名が参加しました。木梨達雄学長による開会挨拶の後、国際化推進センター友田幸一センター長が「舞台は世界に」と題し、これまでの本学卒業生の海外での活躍を紹介。続いて、カナダやマレーシア、リトアニア、ドイツなど様々な国で臨床実習を体験した6学年生たちが、現地の病院での実習スケジュール、同僚・先輩医師とのかかわり、日本との違いで驚いたこと、余暇の過ごし方などについて、英語で語りました。

質疑応答の時間では、報告を聞いた学生から「留学に行く前にどのような準備をすればよいか」などの質問があり、語学力を付けておくこと、医学英語を身に付け

ておくことなどを留学経験者がアドバイス。

その後は医学部金子一成学部長による総評、英語学教室ブルーヘルマンズ・ラウール教授による閉会挨拶が述べられ、報告会は幕を閉じました。



成果報告会の様子

## 令和5年度第1回・第2回大学院企画セミナー

8月25日(金)17時30分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、京都大学iPS細胞研究所・未来生命科学開拓部門濱崎洋子副所長・教授を講師に迎え第1回大学院企画セミナーが開催されました。医化学講座清水(小林)拓也教授の司会の下、濱崎教授が「T細胞の老化と再生」をテーマに講演しました。大学院生時代の様子を交えながら、リンパ球の一種であるT細胞の産生臓器「胸腺」の加齢に伴う変化、新型コロナウイルスワクチン接種を用いた高齢者のワクチン免疫応答に関する研究などについて解説しました。

また8月30日(水)17時30分から同会場において、慶應義塾大学医学部医化学教室佐藤俊朗教授を講師に迎え第2回大学院企画セミナーが開催されました。内科学第三講座長沼誠教授の司会の下、佐藤教授が「オルガノイド技術によって明らかになった疾患生物学」をテーマに

講演しました。幹細胞から作られるオルガノイドが解剖学的に臓器と同じ構造をもつこと、オルガノイド移植による小腸の再生研究の展望などについて、解説しました。

両日とも教職員や大学院生ら約60名が参加し、講演後の質疑応答でも多くの質問が寄せられ、セミナーは盛り上がりを見せました。



T細胞の解説をする濱崎教授

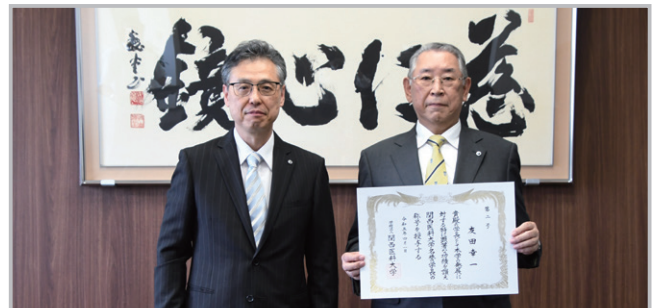


学生の質問に答える佐藤教授

## 名誉学長・名誉教授称号授与について

4月1日(土)付で、友田幸一前学長(現国際化推進センター長)に関西医科大学名誉学長称号及び名誉教授称号が授与されました。9月26日(火)11時から、枚方キャンパス医学部棟13階応接室において「名誉学長称号授与式」及び「名誉教授称号授与式」が挙行政され、木梨達雄学長から友田名誉学長・名誉教授に両証書が手渡されました。

また健康科学教室木村穰前教授、心臓血管外科学講座湊直樹前教授にも名誉教授称号が授与されました。



記念撮影に臨む木梨学長(左)、友田名誉学長・名誉教授(右)

### 表紙写真の解説

総合医療センターホスピタルガーデン「睡蓮の池」横に、モネ《睡蓮：緑のハーモニー》の陶板画が設置されました。これは第29回卒業生笹川美年子氏の寄贈によるものです。ホスピタルガーデンの「睡蓮の池」は、印象派を代表するフランスの画家クロード・モネの連作《睡蓮》をモチーフとしています。池には睡蓮が自生し、春の終わりから夏にかけて可憐な花を咲かせます。モネは、自身が晩年を過ごしたフランスのジヴェルニーの自邸の「水の庭」の池とそこに生育する睡蓮をモチーフに何枚もの連作を描きました。今回設置された《睡蓮：緑のハーモニー》の陶板画もそのうちの一枚で、原画はパリ(フランス)のオルセー美術館が所蔵しています。



# 「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

## 令和5年度募集要項

募集要項	
募金の目的	関西医科大学施設設備整備拡充事業資金
募集主体	学校法人関西医科大学
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他
募集期間	令和6年3月末日まで

### 募金のお手続き

申込書提出

募金室へ寄付申込書をご記入の上ご提出ください。  
 ・申込書はホームページに掲載しております。  
 ・メールに添付、または必要事項を本文にご記入の上、送信いただいても結構です。

お振込み

募金専用口座へお振込みください。  
 ・インターネットバンキングからお振込み  
 ・振込用紙を使用し窓口にてお振込み  
 ・ATMからお振込み ※上限額がございます

確定申告

確定申告いただくと所得税が減税されます。  
 ・募金室より寄付金受領書と減税証明をお送りします。  
 ・住民税減税対象はお住まいの自治体によって異なります。

この募金の応募は任意です。

#### 【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344

メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp

HP：https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html

本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 税制優遇措置のご案内

**個人の場合** 課税所得額からの控除（所得控除）、または所得税額からの控除（税額控除）、いずれかの選択となります。

### 【所得控除】

年間にご寄付いただく金額（所得の40%が限度）が2千円を超えた場合は、2千円を超えた分について、その年の課税所得額から控除されます。

$$\begin{array}{c} \text{寄付金額} \\ \text{(年間所得合計額の40\%が限度)} \end{array} - 2,000\text{円} = \text{所得控除額}$$

### 【税額控除】

年間にご寄付いただく金額（所得の40%が限度）が2千円を超えた場合は、2千円を超えた分について、40%相当額が所得税額から控除されます。但し、所得税額の25%が限度です。

$$\left[ \begin{array}{c} \text{寄付金額} \\ \text{(年間所得合計額の40\%が限度)} \end{array} - 2,000\text{円} \right] \times 40\% = \text{税額控除額} \\ \text{(所得税額の25\%が限度)}$$

確定申告により所得税が還付されます

### 法人の場合

#### (1) 特定公益増進法人寄付金

寄付金額のうち、一般寄付金の損金算入限度額と特別損金算入限度額の合計金額までが損金に算入できます。

#### (2) 受配者指定寄付金

寄付金全額が当該事業年度の損金に算入できます。日本私立学校振興・共済事業団を通し、本学を受取先に指定してご寄付をしていただく制度です。

令和5年7月から令和5年9月までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

**ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。**





## 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	9月26日	名誉学長・名誉教授称号授与式
	6月19日~7月7日	看護学部卒前インターンシップ
	7月9日、8月6・20日	看護学部オープンキャンパス
	7月15日	看護学部ホームカミングデー
	7月22日	常翔啓光学園中学校との高大連携事業の実施
	7月23日、8月5日	医学部オープンキャンパス
	7月23日、8月20日、9月3日	リハビリテーション学部オープンキャンパス
	7月27日	看護学部OSCE
	7月29日	看護学部国試対策応援会
	8月5日	常翔啓光学園高等学校との高大連携事業の実施
	8月11日	第3回新医学教育改革2023ワークショップ
	8月19・27日	夏休み子ども企画
	8月25日	第1回大学院企画セミナー
	8月30日	第2回大学院企画セミナー
	9月1・2日	大学院医学研究科リトリート
	9月4日	コンケン大学の教員・大学院生が来訪
	9月8日	国外臨床実習成果報告会
	9月9・10日	研究医養成コースコンソーシアム合宿
	9月12日	令和4年度「学生からの教育評価」
	9月15・22・29日	「自分でできるフレイル予防」
	9月25日	令和5年9月度大学院看護学研究科学位授与式
	9月26日	令和5年9月度大学院医学研究科学位記授与式
	附属病院	7月1日
7月5日		特定機能病院連絡会議
7月8日		第18回緩和ケア研修会
7月11日		がんサロン
7月21日、8月18日		チームSTEPPS集合研修(第1回、第2回)
7月28日		1日看護師体験
8月2日		こども病棟夏祭り
8月30日		沖縄美ら海水族館遠隔授業
9月16日		市民公開講座
9月30日		第12回地域医療連携フォーラム
総合医療センター	7月10日	第26回地域連携研修会
	7月28日	第27回地域連携研修会
	8月3・4日	第17回滝井セミナー
8月24日	第28回地域連携研修会	
卒後臨床研修センター	7月2日	レジナビフェア2023大阪
	8月1・10日	令和6年度研修医採用試験
	8月26日	令和6年度研修歯科医採用試験
9月16日	立食交流会	
看護キャリア開発センター	7月9日	看護副師長研修
	7月12日	実施指導者研修
	7月29日	第1回看護研究セミナー
	9月2日	看護管理者研修



看護学部国試対策応援会



医学部オープンキャンパス



看護学部オープンキャンパス



リハビリテーション学部オープンキャンパス



卒後臨床研修センター立食交流会

## 令和4年度「学生からの教育評価」



本学では、教員の教育活動を奨励しその資質の向上を図ることを目的として、学生による教育評価アンケートを実施しています。令和4年度の講義について学生に教育評価アンケートを集計した結果、次の講義・教員が高い評価を得ました。

### ●医学部 教育奨励賞

教養・基礎統合コース	臓器別系統別コース	臨床実習科目
1位 生体の構造と機能 P2b (2学年)	1位 運動器(3学年)	1位 神経内科学(5学年)
2位 LPBL A1 (1学年)	2位 血液・移植(3学年)	2位 救急医学(5学年)
3位 感染と生体防御 P2 (2学年)	3位 リハビリテーション・地域包括医療(3学年)	3位 皮膚科学(5学年)

### ●医学部 教員部門

1学年	2学年	3学年	4学年
1位 黒瀬 聖司 (健康科学センター)	1位 大江 総一(解剖学講座)	1位 大江 知里(病理学講座)	1位 山根 朗(心療内科学講座)
2位 奥藤 里香(英語教室)	2位 小池 太郎(解剖学講座)	2位 尾崎 吉郎 (内科学第一講座)	2位 梅垣 岳志(麻酔科学講座)
3位 松岡 由和 (iPS・幹細胞再生医学講座)	3位 関 亮平(解剖学講座)	3位 吉村 晋一 (脳神経外科学講座)	3位 神田 靖士 (衛生・公衆衛生学講座)

### ●看護学部

講義部門	演習部門	実習部門
1位 病態生理学／機能障害Ⅱ	1位 ヘルスアセスメント	1位 在宅生活援助論実習

### ●リハビリテーション学部

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
1位 哲学	1位 老年医学	1位 精神障害作業療法評価学・演習
2位 フランス語	2位 リハビリテーション概論	2位 理学療法概論
3位 中国語	3位 臨床心理学 生理学実習	3位 基礎作業学



表彰式の様子

また、医学部においては教育評価アンケートの結果に基づき高い評価を得た教員もしくは科目を「関西医科大学教育奨励賞」として表彰しています。9月12日(火)15時40分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において表彰者を対象に「令和4年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式」が行われました。この日の表彰式では、令和4年度表彰の対象となった講義の教員に木梨達雄学長から表彰状が手渡されました。

## コンケン大学(タイ) 来訪



9月4日(月)13時30分にコンケン大学(タイ)公衆衛生学部の教員及び大学院生らが、本学衛生・公衆衛生学講座との将来的な共同研究などの模索や、互いの研究活動に関する情報交換のために来訪しました。

一行は、関医タワー3階会議室での国際化推進センター友田幸一センター長との面会后、記念撮影や互いの大学紹介、研究活動に関するプレゼンテーションを行いました。その後、枚方キャンパス医学部棟内の研究施設見学や、シミュレーションセンターで様々なシミュレーション機器を体験し、普段触れる機会の少ない研究設備や機器に関心を示していました。



医学部棟正面玄関前で、特製の横断幕を持って記念撮影



## 令和5年度 研究医養成コースコンソーシアム合宿

医

9月9日(土)から10日(日)にかけてホテルフクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)において「研究医養成コースコンソーシアム合宿」が開催され、本学及び連携5大学(奈良県立医科大学、兵庫医科大学、大阪医科薬科大学、神戸大学、藤田医科大学)の学生・教職員合わせて56名が参加しました。

令和2年度以降はコロナ禍により、オンラインでの代替実施や規模を縮小して1日での開催を余儀なくされていましたが、今年度は従来通り、1泊2日の合宿形式での開催となりました。1日目には学生によるポスター発表と教員を交えてのグループワークを、翌日はポスター発表で参加者から特に高い評価を獲得した学生3名によ

る発表とグループワーク発表、参加教員による講演を行いました。それぞれの大学の研究や研究体制について、最後まで活発な意見交換が行われました。



ポスター発表の様子

## 大学院医学研究科リトリート

医

9月1日(金)から2日(土)にかけてホテルフクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)にて医学研究科リトリートが開催され、医学研究科大学院生と教員あわせて103名が参加しました。4つの選択必修コース(細胞の増殖と分化コース、体の高次機能コース、形態形成と老化コース、社会と健康コース)ごとに自己紹介や研究紹介を行った後、博士課程3学年による研究中間発表や教員による講演が行われました。大学院生および教員の投票により各コース研究中間発表優秀賞1位・2位を選出し、表彰しました。4年ぶりの合宿形式での開催となり、参加学生にとっては様々な研究内容に触れたり、フィードバックを受けたりすることができる良い機会となりました。

### 【研究中間発表優秀賞】

- 細胞の増殖と分化コース
  - 【1位】 3学年 福井充香さん
  - 【2位】 3学年 四十万谷卓也さん
- 体の高次機能コース
  - 【1位】 3学年 高井朋代さん
  - 【2位】 3学年 外山雄康さん
- 形態形成と老化コース
  - 【1位】 3学年 横田開人さん
  - 【2位】 3学年 Tran Thuy Huong Quynhさん
- 社会と健康コース
  - 【1位】 3学年 島本優太郎さん
  - 【2位】 3学年 村岡秀映さん



集合写真

## 看護学部OSCEの導入

看

令和5年度から看護学部では、OSCE(オスキー)を導入しました。OSCEとはObjective Structured Clinical Examinationの頭文字を取ったもので、「客観的臨床能力試験」を意味します。より臨床場面に近い状況での判断力・技術力・態度など看護職者に求められる看護実践能力の到達度を確認します。

7月27日(木)12時から枚方キャンパス看護学部棟において、看護学部4年次の学生たちがOSCEを受験しました。学生たちはその場で与えられた臨床課題に対し、患者さんへ必要な看護を実施。これまでの学習の成果を実感するとともに自身の看護実践能力の課題を明確にすることができました。試験の後には、模擬患者さんと看

護学部加藤令子学部長をはじめとする教員からフィードバックを受け、卒業に向けてさらなる学修への意欲を高める機会となりました。



学生たちに語りかける加藤学部長

## 看護学部ホームカミングデー開催

看

7月15日(土) 11時から枚方キャンパス看護学部棟4階討議室において、第1回看護学部ホームカミングデーを開催しました。当日は、令和4年度の卒業生や教職員ら16名が参加。久しぶりに来学した卒業生たちは、学生時代の懐かしい思い出や現在の仕事、将来の夢などを語り合い、旧友や恩師との再会を楽しみました。看護師や保健師として現場に立っている卒業生からは、失敗や苦悩、やりがいなど様々な声が寄せられました。教員たちもそれぞれの看護師時代の経験を紹介し、卒業生たちのさらなる活躍を願ってアドバイスする場面もありました。



それぞれの経験を語り合う参加者

## 常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業の実施

看リ

看護学部、リハビリテーション学部は令和5年度から常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業を推進し、中学生・高校生のキャリア形成を応援しています。

7月22日(土) 10時から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において体験学習が行われ、同中学校の生徒が参加しました。理学療法学科では筋機能測定と動作解析、作業療法学科では草細工と手の装具作製の体験が実施されたほか、参加者たちは大学の講義を聴講しました。

8月5日(土) 9時30分からは、枚方キャンパス看護学部棟で1日看護体験が行われました。同高等学校の生徒が来学し、シミュレータを用いた看護ケア、赤ちゃんの沐浴、心肺蘇生法を体験。また、高齢者の方のものの見え方、聞こえ方や体の動かし方の疑似体験も行われました。

参加者からは、大学での教育に触れる機会によって入

学後の具体的なイメージがわいた、など肯定的な感想が寄せられました。



看護学部 高齢者疑似体験



リハビリテーション学部 動作解析

## 夏休み子ども企画「関西医科大学で遊びを体験」

リ

8月19日(土)、27日(日) (午前の部10時から、午後の部13時30分から)に牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において地域の子ども向け企画「関西医科大学で遊びを体験」が開催されました。

このイベントは、地域の中で全ての子どもが健やかに成長していける社会を目指し、地域に貢献できる取り組みとして作業療法学科の教員らが企画したもので、第2回目となる今回は2日間合計で8家族、児童14名とその保護者らが参加。教員らと学生スタッフがサポートする中で、子どもたちは様々な遊具に挑戦し、心身の発達に欠かせない遊びを思い切り体験しました。



様々な遊具で楽しむ子どもたち



## 「自分でできるフレイル予防」開催

9月15日(金)、22日(金)、29日(金)いずれも10時から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟2階大講義室1において、シリーズ講義「自分でできるフレイル予防～学び、知ることが健康を守る～」が開催されました。これは地域在住の高齢者やその家族を対象としており、「フレイル」やその予防について学ぶことで、自分自身でフレイル予防ができるようになることを目指した講習会で、近隣の地域包括支援センターと共催で実施しています。

この講座には様々なリハビリテーション職が関わり、身体的フレイルは理学療法士、ソーシャル・メンタルフレイルは作業療法士、オーラルフレイルは言語聴覚士と歯科医師が講義と評価を担当しました。

1回目は身体的フレイル、2回目はメンタル・ソーシャルフレイル、3回目はオーラルフレイルをテーマに講義と評価が行われ、24人が参加。理学療法学科浅井剛准教授の司会により初日の講義がスタート。参加者はフレイルの概念やフレイルにより生じるリスク、評価方法についての講義を受けるとともに、現在の自分の状態を知るための評価や測定を行いました。

各回の講義と評価にはボランティアの学生スタッフも参加。笑顔を見せながら参加者に測定方法を説明したり、測定結果の解説をする様子が見られました。



参加者に測定の説明をする学生スタッフ(右)

## 令和5年9月度 大学院医学研究科学位記授与式・大学院看護学研究科学位授与式 医 看

9月26日(火) 15時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、「令和5年9月度大学院医学研究科学位記授与式」が挙行されました。学位記授与式には木梨達雄学長をはじめ岡田英孝副学長、齋藤貴徳副学長、大学院医学研究科金子一成研究科長、大学院医学研究科人見浩史教務部長、中邨智之教務副部長や指導教員、審査委員らが列席し、課程博士6名、論文博士2名に博士(医学)の学位記が授与されました。

その後の学長式辞では、学位取得者の努力を労い、今後の活躍を期待しての激励の言葉が贈られました。また、修了生謝辞として、授与者代表からこれまでの大学院生活を振り返りながら、指導教員や関係教職員のサポート

に対する感謝と医学博士号授与者としての決意が述べられました。

また、9月25日(月) 15時30分から枚方キャンパス看護学部棟1階遠隔講義室において、「令和5年9月度大学院看護学研究科学位授与式」が挙行されました。木梨達雄学長、大学院看護学研究科加藤令子研究科長、大学院看護学研究科瀬戸奈津子教務部長、近藤麻理学生副部長、関西医科大学看護同窓会安田照美会長らが列席しました。木梨学長から学位記が博士後期課程の修了生1名に授与されました。つづいて木梨学長の告辞、加藤研究科長からの祝辞が述べられ、修了生のこれまでの努力を労い修了後の新たな一歩を祝福する言葉が贈られました。



学位記を手に持つ修了生(医学研究科)



謝辞をのべる修了生(看護学研究科)

## THE Awards Asia 2023 「International Strategy of the Year」部門で最終選考候補に選出

本学はTHE Awards Asia 2023 「International Strategy of the Year」部門で最終選考に選出され、6月21日(水) 18時30分からAsia Society Hong Kong Center (香港)で開催されたセレモニーには国際化推進センター友田幸一センター長が出席しました。この部門は、国外の大学とのパートナーシップの構築、海外事業等の戦略的アプローチにおいて、卓越した成功を取めた教育機関が選出されます。本学は世界中の優秀な人材と交流し教育を行う拠点の形成、国際共同研究や産学連携・知的創出につながる創造性に富む研究等の推進、医療における国際協力や医療技術の普及による国際貢献などに取り組んでいます。これらの取り組みが評価され、最終選考候補に選出されました。



## 若手研究者特集

様々な研究活動とその成果が学内外から表彰され、躍動する本学の若手研究者たち。その活躍の一端をご紹介します。記事企画時点で40歳以下で、一定の研究成果を持つ研究者の先生方に取材する連載企画です。

# ウサギ敗血症性ショックモデルに対する ノルエピネフリンの腸管循環系への作用

医学部 救急医学講座 中村 文子 助教

### —現在の研究テーマとそのテーマに決めたきっかけを教えてください。

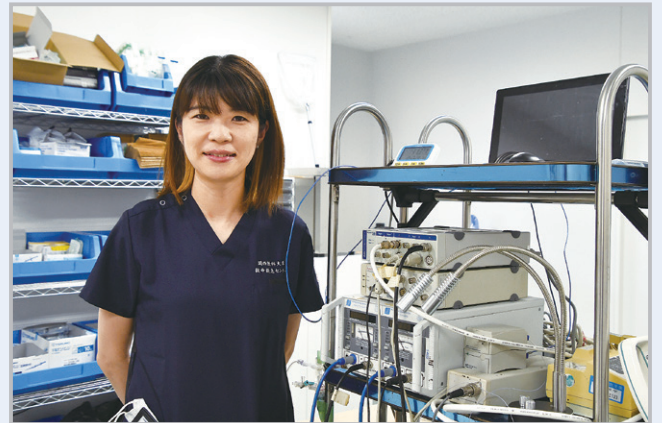
大学院では「ウサギ敗血症性ショックモデルに対するノルエピネフリンの腸管循環系への作用」をテーマに研究しました。救急医学科へ入局後は内科救急をはじめ腹部救急、外傷救急、集中治療に携わりました。その中で臨床では、大腸穿孔や非閉塞性腸管虚血症に興味をもちました。治療をしていく中で、原因、予後因子や治療方針を考え、データを集め論文執筆を行いました。機会に恵まれ大学院へ進学、救急医学講座の鎌方主任教授が敗血症をテーマに研究されていたこともあり、臨床で疑問に思っていたことを研究テーマにしたいと思いました。臨床では、敗血症性ショックの患者さんにガイドラインで血管収縮薬の第一選択薬のノルエピネフリンを持続投与すると非閉塞性腸管虚血症になる症例を多く経験しました。そのことから先述のテーマに決め研究を開始しました。

### —その研究について教えてください。

敗血症性ショックの輸液量や血管収縮薬投与についての議論は現在も続いており、蘇生輸液と同時に早期にノルエピネフリン投与を行う傾向にあります。しかし、臨床において、ノルエピネフリンを必要とする敗血症性ショック患者さんが非閉塞性腸管虚血症を発症し不幸な転帰の経過をたどることをしばしば経験し、敗血症性ショック時のノルエピネフリン投与が特に腸管粘膜虚血症を惹起する可能性があると考えました。研究の目的は、ウサギ敗血症性ショックモデルにおいて、ノルエピネフリンが時間経過とともに上腸間膜静脈血流と空腸粘膜組織血流の腸管循環系に与える変化を評価することです。研究の結果より、ウサギ敗血症性ショックモデルにおいて、ノルエピネフリンは平均動脈血圧や上腸間膜静脈血流は維持するが、空腸粘膜組織血流を減少させることを示しました。このことは、敗血症性ショックでしばしば経験する深刻な合併症である非閉塞性腸管虚血症の成因に、敗血症性ショックに対する血管収縮薬の第一選択であるノルエピネフリンが関与している可能性を示唆するものとなり、今後、敗血症性ショックに対する治療選択をする上で一助となりうる結果となりました。私が大学院を修了後、後輩が継続し敗血症性ショック時に空腸粘膜組織血流の維持を可能とする薬剤について研究し、本学の附属生命医学研究所神経機能部門との共同研究で2-methyl-2-thiazoline という薬剤で結果を出しました。

### —研究の目標としていることや将来展望を教えてください。

大学院を修了後も、本学附属生命医学研究所侵襲反応制御部門に協力していただき、「救急現場オンサイトでの迅速感



染症診断を可能にする超小型シークエンスシステムの確立」というテーマで研究を継続しています。また、更なる研究継続のため日本学術振興会科学研究費助成事業に応募しています。研究での目標は、臨床で疑問に思うことを研究し、臨床に繋がる研究ができれば良いと思っています。今後も、研究を継続しながら臨床医としても前進していければと考えています。

### —研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

平成29年に入学した時、私が初めての救急医学講座での大学院生でした。指導教員や基礎分野の先生にもたくさん協力していただき試行錯誤しました。論文を読んだり、統計手法を勉強したり、臨床ではなかなか勉強することのなかったことに取り組みました。研究は臨床では得ることのできない知識や技術を得ることができます。いろんな可能性が広がるチャンスなので是非、研究にも興味を持ってほしいと考えています。

#### 【経歴】

平成24年 4月 関西医科大学附属枚方病院救急医学科 専修医  
平成26年 4月 関西医科大学附属枚方病院救急医学科 病院助教  
平成28年 9月～平成30年3月 関西医科大学附属病院外科出向  
令和 3年 3月 関西医科大学大学院医学研究科博士課程単位修得  
(医科学専攻救急・災害医学)  
令和 3年 4月 関西医科大学附属病院救急医学科 助教

#### 【受賞・競争的研究費採択歴】

- 平成30年度 日本損害保険協会 交通事故医療一般研究助成 総額100万円  
「ショックを伴う外傷後に発生する腸管虚血症に対するPDEの使用、PDEを用いた腸管損傷に対する虚血範囲の同定方法の確立」  
研究代表者：中村文子
- 平成30年度 学内助成D2 総額30万円  
「ウサギ敗血症性ショックにおける小腸粘膜障害の防御機構に関する検討」  
研究代表者：中村文子
- 令和2年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 総額416万円  
「救急現場オンサイトでの迅速感染症診断を可能にする超小型シークエンスシステムの確立」  
研究代表者：中村文子



## デフォルトモードネットワークを解析し 認知機能改善に

リハビリテーション学部 作業療法学科 山下 円香 助教

—現在の研究テーマとそのテーマに決めたきっかけを教えてください。

私の現在の研究テーマは、「脳ネットワークをターゲットにした認知トレーニング技法の開発」です。大学院に在籍していた頃、学習方法によって脳ネットワークの働きがどのように変わるのか、脳機能を効果的に働かせるには、どのような学習方法がいいのか、について検証するため、複数の学習法に取り組んでいる際の脳活動や、ヒトの脳機能の全般の特徴を反映すると考えられている安静時の脳活動をfMRI（機能的磁気共鳴画像法）を使って計測し、そのデータを脳ネットワーク解析することに取り組んでいました。fMRI装置のなかで実施する学習課題をプログラミングで作成することやネットワーク解析などは、私にとってはかなりハードルの高い試行錯誤の連続で、諸先生方の多大なご指導によって導いていただきました。

その結果、正答が分からない状況で試行錯誤する必要がある学習状況では、デフォルトモードネットワークという脳ネットワークの結合がより密になるということや、元々このネットワーク結合が密である人ほど試行錯誤による学習成績が高くなるということが分かりました。そしてこの結果をリハビリテーションに活かせるのではないかと思いました。その理由は、このデフォルトモードネットワークの結合が正常加齢に伴って減少することや、認知症になるとその減少がさらに加速することなどが報告されており、またその変化が認知機能低下と関連すると考えられていたからです。私たちのこれまでの取り組みのなかでも、健常な中年期（40～60歳）にあっても、試行錯誤を伴う学習をしている際のデフォルトモードネットワーク結合は加齢に伴い減少し、かつ学習成績も低下していくという傾向が確認されました。特定の学習法による情報処理スタイルが、加齢や認知症で低下しやすいネットワーク機能を反映するならば、その学習法によって機能向上や低下の予測ができるのではないかと考えました。そこで、高齢期前後はもちろん、中年期も対象に、脳ネットワークをターゲットにして、効果的かつ予防的な意義も持ち合わせた認知トレーニング技法の検証を試みることにしました。

—その研究について教えてください。

まず、これまでの検証結果をもとに、デフォルトモードネットワークをより動員すると考えられる学習課題を、タブレット課題として作成しました。そして、その課題実施中の脳活動を、脳波計を使って検証しています。現在は、大学周辺の地域にお住まいの60歳以上の方々を主な対象として、研究にご協力いただいております。また、このタブレット課題は、実験用だけでなく、デイケアなどの通所サービスや自宅など幅広い場所で日常的に使用い



ただけるものとするための改良にも取り組んでいるところです。

—研究の目標としていることや将来展望を教えてください。

研究の目標は、現在作成している学習課題によるトレーニング技法が、早期認知症の認知機能改善に役立つこと、そして認知症につながる可能性がある認知機能低下の早期発見に役立つことです。将来的にはより若年者も対象に、青年期における教育現場などにおいても、脳機能により良い影響をもたらす学習法や環境適応法の提供につなげられることを望んでいます。

—研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

認知リハビリテーションは学際的な分野で、それが面白いところの一つだと思っています。例えば、認知機能検査の結果が脳ネットワークの結合度合いや波形の変調などで説明されることや、反対に、脳の機能的構造の特徴が臨床症状の理解を助けてくれることが、もっと知りたいと感じるきっかけになっています。実際の研究活動では、実験環境を整えることや、きれいなデータを計測するためのノウハウを身につけることなどの現実的な課題に向き合っている時間もたくさん必要ですが、そのようなステップも含めて楽しみながら取り組んでいきたいと思っています。

### 【略歴】

平成18年 3月 神戸大学医学部保健学科卒業  
平成28年 3月 神戸大学大学院保健学研究科 博士前期課程 修了  
令和 2年 9月 神戸大学大学院保健学研究科 博士後期課程 修了  
令和 3年 4月 関西医科大学リハビリテーション学部 助教

### 【受賞・競争的研究費採択歴】

- ・平成30年12月 第42回 日本高次脳機能障害学会 優秀ポスター賞受賞
- ・令和元年6月 16th Conference of the Neuropsychological Rehabilitation Special Interest Group of the World Federation for NeuroRehabilitation Poster Award
- ・日本学術振興会 科学研究費 研究活動スタート支援  
fMRIを用いた高齢者の認知リハビリテーションにおける学習メカニズムの解明  
169万円 研究期間：令和3年度～令和4年度  
研究代表者：山下 円香
- ・日本学術振興会 科学研究費 若手研究  
脳ネットワークを指標とした学習理論に基づく高齢者の認知トレーニングの開発  
260万円 研究期間：令和5年度～令和7年度  
研究代表者：山下 円香

附属病院

## 1日看護師体験

7月28日(金)9時から附属病院各病棟において、高校生を対象に「1日看護師体験」が開催されました。これは看護に対する理解を深めるとともに、看護の明るいイメージづくりを図り、将来の進路選択の参考としてもらうために行っている大阪府の事業で、この日は大阪府下2つの高校から31名が参加しました。

参加者は、オリエンテーションや歓迎のあいさつを受けた後、各病棟に分かれて手浴の援助や配膳、血圧測定などの看護業務を体験。患者さんと直接触れ合う機会に緊張した表情を浮かべながらも、現場で働く看護師らに同行し、看護の現場を肌で感じていました。懇親会では「ハードだけどやりがいも感じた」「看護の仕事についてもっと知りたいと思った」などの感想が聞かれました。



看護師に付き添われながら配膳を行う高校生

附属病院

## こども病棟夏祭り

8月2日(水)18時30分から附属病院5階こども病棟エントランス及びプレイコートにおいて、「こども病棟夏祭り」が開催され、入院中のこどもたちやその保護者らが参加しました。

この夏祭りは、単調な入院生活にメリハリをつけることでストレス発散の場とすること、患児とその家族同士の交流を図ることなどを目的に開催されているものです。当日は天候に恵まれ、的当てやスーパーボールすくい、似顔絵などが開催されました。

こどもたちは保護者や浴衣姿の医師・看護師と一緒に的当てをしたり、似顔絵を描いてもらったりしながら夏祭りを楽しみました。



プレイコートで夏祭りを楽しむ参加者(手前)

附属病院

## 沖縄美ら海水族館遠隔授業

8月30日(水)13時から附属病院5階こども病棟にて、小児患者さん支援の一環として附属病院がんセンターAYA世代支援チームの主催で「沖縄美ら海水族館遠隔授業」を開催しました。これは沖縄美ら海水族館が教育普及プログラムとして無料で実施しているもので、オンラインで施設と中継を繋ぎ、こども病棟入院中の患者さん6名が参加。テーマは複数ある中からの選択制になっており、今回は「ジンベエザメが泳ぐ大水槽見学」と「ジンベエザメに関するクイズ」を選びました。

こどもたちは、ジンベエザメやマンタが悠々と泳ぐ姿や、大水槽で飼育されている多様な魚たちに見入り、飼育員によるジンベエザメの生態解説やクイズで大いに盛り上がりました。参加者からは「ジンベエザメはどうやって寝るの？」などの質問があがっていました。



ジンベエザメの泳ぐ姿に見入る参加者たち



附属病院

## 附属病院市民公開講座開催

9月16日(土) 14時から、附属病院13階講堂において「人生会議ってなあに？」をテーマに、4年振りとなる市民公開講座が開催され、約50名が来場しました。

松田公志病院長の挨拶後、看護部中村桐子副部長の司会のもと、講演一部では緩和ケアセンター佐久間博子がん看護専門看護師の「私らしい暮らしを実現するために」にて「人生会議」の概要が、続く講演二部では各専門職の立場から具体的な行動に焦点を当て、牧田崇史医療ソーシャルワーカーの「病院と地域をつなぐ窓口」、関医訪問看護ステーション・枚方永田多恵子看護管理師長の「訪問看護ってなあに？」、同武田真輝理学療法士の「訪問リハビリってなあに？」の3題が講演されました。

講演後の質疑応答コーナーでは、参加者から多くの質

問が寄せられるなど、講演テーマに対して関心の高さが感じられました。



参加者からの質問に答える牧田医療ソーシャルワーカー

総合医療センター

## 第17回滝井セミナー～子どもを理解するために～

8月3日(木)、4日(金)両日ともに13時30分から総合医療センター南館2階臨床講堂において、また併せて動画配信形式で滝井セミナーが開催されました。これは、教育関係者を対象にコロナ禍における起立性調節障害など小児心身症を患う子どもたちへの対応について理解を深めることを目的に、大阪府立刀根山支援学校と協力して行っているもので、今回が17回目の開催となります。

セミナーでは、総合医療センター小児科石崎優子診療教授による「発達障害への理解と対応」、同科柳本嘉時講師による「起立性調節障害への理解と対応」、同科吉田龍平病院助教による「摂食障害への理解と対応」の3講演が行われ、講演後は教育現場で判断に迷うことなどについて質問する参加者の様子が見られました。



講演を行う石崎診療教授

香里病院

## 看護師が人命救助、寝屋川消防署から感謝状を贈呈

5月19日(金)、香里病院看護部清水美由紀看護師が、路上に心肺停止状態で倒れていた男性の救助活動を行いました。

出勤途中の清水看護師は、倒れている男性を発見したドライバーの声に反応して自身も歩道に倒れている男性のもとへ駆け付けました。周囲の方へ声をかけて、救急車を呼ぶ方、胸骨圧迫をする方、AEDを持って来る方と、役割分担を依頼し、救急隊到着後は状況説明を行いました。救助された男性は治療を受けた後、日常生活に問題なく復帰し、清水看護師は8月17日(木)に寝屋川消防署から感謝状を贈呈されました。

清水看護師は「救助した際は必死だったので、AEDで蘇生されたと聞いた時は安心しました。後で自分の行動を振り返ると、まだまだ看護技術や知識の勉強が必要であることを実感し、今後の課題や問題点を見つめ直す機会となりました」と語りました。



感謝状を贈呈された清水看護師

## 民間医局レジナビフェア2023～臨床・専門研修プログラム～出展

7月2日(日) 11時からインテックス大阪1・2号館(大阪市住之江区)において、「レジナビフェア2023～臨床・専門研修プログラム～」が対面形式で開催され、医学生向けの臨床研修プログラムには研修医7名が、研修医向けの専門研修プログラムには内科6科(第一内科、第二内科、第三内科、心療内科、脳神経内科、呼吸器腫瘍内科)、外科、産婦人科、救急医学科、麻酔科が参加しました。

当院のブースを訪問した医学生・研修医合計135名に対して、当院所属研修医・医師から臨床研修プログラム及び専門研修プログラムについて熱心に説明を行いました。



説明を聞く参加者

## 令和6年度第1回・第2回研修医採用試験、研修歯科医採用試験

8月1日(火)、10日(木)に「令和6年度研修医採用試験」を、8月26日(土)に「令和6年度研修歯科医採用試験」を実施しました。

研修医採用試験では、計52名の募集定員に対し本学出身者96名、他大学出身者80名の計176名から応募があり、過去最多の171名が受験しました。また、研修歯科医採用試験では、2名の募集定員に対し6名の応募があり、6名が受験しました。



採用試験の様子



お知らせ

### 附属医療機関 Web サイトリニューアル

このたび、本学附属医療機関Webサイトについて、患者さんファーストの「役に立つ」「使いやすい」「見つけやすい」ホームページへとリニューアルいたしました。

これに伴い、URLが変更になります。リニューアル後も一定の期間は自動で新しいホームページに転送するように設定されていますが「お気に入り」「ブックマーク」等のURLの再登録をよろしくお願ひします。

■ 附属病院

<https://hp.kmu.ac.jp/>



■ 総合医療センター

<https://hp.kmu.ac.jp/takii/>



なお、香里病院・くずは病院・天満橋総合クリニック・くずは駅中健康・健診センターサイトも順次リニューアル予定です。今後もこれまで以上に、わかりやすい情報発信に努めてまいります。





## 学会主催報告

令和5年7月～9月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

### 第33回日本サイトメトリー学会学術集会

■会期 令和5年7月22日(土)～23日(日) ■場所 金沢未来のまち創造館・オンライン

■テーマ サイトメトリーを利用した研究

第33回日本サイトメトリー学会学術集会がオンラインおよびバーチャル会場として開催されました。事務局長である伊藤量基教授が、配信会場である金沢の現地に参加し、座長などの労務を実施しました。約400名の参加があり、ここ数年では最大人数の参加者が集まりました。【事務局長：内科学第一講座 伊藤 量基 教授】



### 第47回日本小児皮膚科学学会学術集会

■会期 令和5年7月15日(土)～16日(日) ■場所 大阪国際会議場

■テーマ 小児における腸皮膚相関(Gut-skin axis)

小児皮膚科学は新生児期から思春期に生じる皮膚疾患の診断、治療そして予防を扱う学問です。本学会の学術大会は、小児の皮膚疾患の診療と研究を共通基盤とする小児科と皮膚科関連の医師や研究者が、一堂に会して小児の皮膚疾患の病態と治療について研究発表を行い、議論し、討論を通して情報交換を行い、研鑽を積み場となっています。今回のテーマは「小児における腸皮膚相関(Gut-skin axis)」とし、関連するシンポジウムや特別講演を企画しました。学会開催両日共に多数の参加者を迎えることができ、活気ある学会となりました。

【会頭：小児科学講座 金子 一成 教授】



### 第40回日本眼腫瘍学会

■会期 令和5年9月23日(土)～24日(日) ■場所 なんばスカイコンベンションホール

■テーマ 眼腫瘍学、その知と実践

今回の学会は、「眼腫瘍学、その知と実践」をテーマといたしました。本学会の目的は、眼腫瘍スペシャリストにとっても、腫瘍に日常診療においてあまり携わらない眼科医にとっても魅力ある学会内容にしたいと、プログラム、シンポジウム、特別公演を企画しました。応募していただきました33演題の内容が、幸いにもある分野に偏ることなく、眼窩・前眼部・後眼部と適切に分散することができました。

【会長：眼科学講座 高橋 寛二 教授】



## 学会賞等受賞情報

令和5年6月～9月の学会賞受賞者等を紹介いたします。

#### the 2021 high impact article of JGO

外科学講座 里井 壯平 診療教授

■テーマ Conversion surgery in patients with pancreatic cancer and peritoneal metastasis  
■授与学会 Journal of Gastrointestinal Oncology



#### 優秀演題

整形外科学講座 谷 陽一 助教

■テーマ  
・腰仙椎固定術後が日常生活動作(ADL)に及ぼす影響－固定椎間数と脊椎不撓性ADL指数－  
・低侵襲脊椎手術をとり入れた化膿性脊椎炎に対する治療strategyと臨床成績  
■授与学会 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会  
※2演題において優秀演題に選出



#### 2023年度優秀論文賞

産科学・婦人科学講座 森川 守 診療教授

■テーマ Gestational diabetes mellitus offsets the birth rate of small-for-gestational-age infants induced by hypertensive disorders of pregnancy: a single-center retrospective cohort study  
■授与学会 日本妊娠高血圧学会



#### 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 2023年度 最優秀論文賞

整形外科学講座 谷 陽一 助教

■テーマ 成人脊柱変形矯正手術において固定上位端へのBalloon-assisted vertebraloplasty(BVP)による補強はProximal Junctional Kyphosis(PJK)予防に有効か？  
■授与学会 第30周年記念日本脊椎・脊髄神経手術手技学会

#### 日本医学教育学会賞(懸田賞)

教育センター 林 幹雄 講師

■テーマ Ambivalent professional identity of early remedial medical students from Generation Z: a qualitative study  
■授与学会 日本医学教育学会



#### 優秀演題

麻酔科学講座 西本 浩太 助教

■テーマ 診断未確定の、中枢性低換気由来と思われる挿管患者において、フロートリガーの調整が治療効果判定に有用となった一症例  
■授与学会 第45回日本呼吸療法医学会学術集会



#### 大会長賞

精神神経科学講座 佃 万里 助教

■テーマ 反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)の刺激位置と抗うつ効果の関連性について  
■授与学会 第25回日本薬物脳波学会学術総会



#### 第37回日本外傷学会総会・学術集会 学生・研修医セッション最優秀賞

救急医学講座 大槻 眞佐子 任期付助教

■テーマ Hybrid ERでIVRと開腹手術を迅速に施行し救命できた多発外傷の1例  
■授与学会 日本外傷学会



#### IAP 2023 Young Investigator Award

外科学講座 宮崎 秀高 助教

■テーマ Survival impact of pathological shrinkage patterns of pancreatic ductal adenocarcinoma after neoadjuvant chemotherapy  
■授与学会 International Association of Pancreatology



#### 優秀演題賞

看護学部 治療看護分野 クリティカルケア看護学領域 谷水 名美 准教授

■テーマ クリティカルケア領域における急性・重症患者看護専門看護師の倫理的実践  
■授与学会 第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会



#### 日本脊椎・脊髄手術手技学会優秀論文賞

整形外科学講座 石原 昌幸 助教

■テーマ 成人脊柱変形に対するmulti-rodを用いたcircumferential minimally invasive surgeryにおけるロッド折損危険因子の検討  
■授与学会 第30回日本脊椎・脊髄手術手技学会



#### 最優秀演題賞

リハビリテーション医学講座 高畑 晴行 大学院生

■テーマ 要介護高齢者のTimed Up & Go Testの方向転換動作における姿勢制御戦略  
■授与学会 第48回日本運動療法学会学術集会





## 教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。  
(主に令和5年7月1日～9月30日 ※判明分のみ)

## ■ テレビ等

内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「よんちゃんTV」 (7月12日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、新型コロナウイルス感染症の感染者数が増えている現状での医療機関の対応や最近の感染者に多い症状などについて解説しました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「newsランナー」 (8月1日)	宮下診療教授が取材を受け、新型コロナウイルスのワクチン追加接種によって発症予防効果が期待されること、また国産ワクチンの承認によって今後他のパンデミックが起きた際は国内での始動が早くできるのではないかとの見解を述べました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	TBSラジオ「腸から始まる健康ライフ」 (9月4日)	里井診療教授が腸に関する健康情報番組に出演し、すい臓がんの特徴として切除不能と診断される率が7割近くあることや5年生存率が他のがん比べて低いことなどを解説しました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	TBSラジオ「腸から始まる健康ライフ」 (9月11日)	里井診療教授が腸に関する健康情報番組に出演し、すい臓がんの治療について手術可能な患者さんのうち術前治療、手術、術後の抗がん剤治療を行った方の5年生存率は少しずつ改善してきているが、多くは手術ができない患者さんであり、新たな診断と治療の確立が重要であると解説しました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「newsランナー」 (9月18日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行の原因や、コロナの新しい変異株の特徴、対策などについて見解を述べました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	TBSラジオ「腸から始まる健康ライフ」 (9月18日)	里井診療教授が腸に関する健康情報番組に出演し、腹膜転移に対する新規治療法であり自身が中心となって進行しているS-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内投与併用療法について、過去実施したクラウドファンディングなどに触れながら解説しました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	TBSラジオ「腸から始まる健康ライフ」 (9月25日)	里井診療教授が腸に関する健康情報番組に出演し、これからの腸がん治療について、ここ10年間で化学療法の治療効果が非常にようになっており、切除不能と診断された患者さんでも長期の化学療法により手術切除が可能になってきているので諦めずに治療を続けていくことが重要であると解説しました。

## ■ WEBメディア等

健康科学センター 木村 稜 理事長特命教授	インナビネット (7月3日)	木村教授によるモバイルデバイスを用いた遠隔心臓リハビリテーションの解説が掲載されました。
iPS・幹細胞応用医学講座 六車 恵子 教授	朝日新聞 (7月5日)	六車教授が、広島大学原爆放射線医学研究所他との共同研究で、筋萎縮性側索硬化症(ALS)の原因のひとつを遺伝子レベルで突き止めたこと、この解明が新たな治療法の開発につながる可能性があることが掲載されました。
健康科学センター 木村 稜 理事長特命教授	産経新聞 (8月1日)	健康寿命延伸に重要な肥満予防への新たなアプローチとして、木村教授が勤める体に無理のない範囲で行えるダイエットや行動療法を組み合わせる本学附属病院健康科学センター肥満外来での取り組み、同教授のコメントが紹介されました。
小児科学講座 石崎 優子 診療教授	メディカルトリビューン (8月6日)	第47回日本小児皮膚科学会で石崎診療教授が移行期医療が抱える問題点と移行期支援の重要性および、アトピー性皮膚炎における移行期医療について解説した内容が取り上げられました。
リハビリテーション学部作業療法学科 加藤 寿宏 教授	マイナビコムメディカル (8月17日)	加藤教授が監修した、発達障害の子どもにはどんな作業療法が求められるかに焦点を当てて作業療法士の仕事を解説する記事が公開されました。
精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授	メディカルトリビューン (8月18日)	加藤准教授が、自殺予防を目的としたうつ病患者の診断と薬物療法のポイントについて、第20回日本うつ病学会で発表した内容が紹介されました。
精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授 総合医療センター精神神経科 山本 敦子 作業療法士	日経バイオテック (8月22日)	加藤准教授、山本作業療法士らの研究チームが、うつ病、不安症患者さんに対するマインドフルネス瞑想を組み込んだ作業療法の効果を検証したことが紹介されました。
関西医科大学 齋藤 貴徳 副学長	枚方フーレン (8月23日)	読売新聞に掲載された齋藤副学長による枚方銘菓「呼人堂」の「あかつき」紹介について取り上げられました。
附属病院がんセンター 柴田 伸弘 診療講師	QLifePro (8月25日)	柴田診療講師らの研究グループが、早期乳がんの骨髄抑制化学療法により誘発される重篤な有害事象である発熱性好中球減少症(FN)に関連した入院の抑制に、PEGフィルグラスチム(PEG-G-CSF)一次予防投与が一部寄与している可能性を明らかにしたことが取り上げられました。
iPS・幹細胞応用医学講座 六車 恵子 教授	日経バイオテック (9月4日)	六車教授らの研究グループが、ヒトiPS細胞から分化誘導した小脳神経細胞を小脳変性モデルマウスに移植し、小脳に生着した細胞から軸索が伸長することを明らかにしたことが取り上げられました。
iPS・幹細胞応用医学講座 六車 恵子 教授	QLifePro (9月6日)	六車教授らの研究グループが、ヒトiPS細胞から分化誘導した小脳神経細胞を小脳変性モデルマウスに移植し、小脳に生着した細胞から軸索が伸長することを明らかにしたことが取り上げられました。
外科学講座 山崎 誠 准教授	メディカルトリビューン (9月6日)	山崎准教授らの研究グループが、切除不能な局所進行食道がんに対する一次治療についての多施設共同第II相ランダム化比較試験を行い、化学療法に比べて化学放射線療法は予後改善効果が期待できると、一次治療後の外科手術は比較的安全に実施できるとの結果を得たことが掲載されました。
内科学第二講座 塩島 一朗 教授	日経バイオテック (9月11日)	塩島教授らの研究チームが、心筋細胞由来Wnt5aが心不全を増悪させるとの研究結果を発表したことが取り上げられました。
内科学第二講座 塩島 一朗 教授	QLifePro (9月13日)	塩島教授らの研究チームが、心筋細胞由来Wnt5aが心不全を増悪させるとの研究結果を発表したことが取り上げられました。
精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授・ 緒方 治彦 助教	日経バイオテック (9月15日)	加藤准教授、緒方助教らの研究チームが世界で初めてうつ病患者血中のmiRNA発現量とmtDNAコピー数の関連を厳格な統計手段で解析し、5種類のmiRNAとmtDNAに関連がある結果が得られたことが掲載されました。
精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授・ 緒方 治彦 助教	QLifePro (9月19日)	加藤准教授、緒方助教らが、microRNA(miRNA)発現量とミトコンドリアDNA(mtDNA)コピー数の関連を厳格な統計手段で解析し、うつ病患者の5種類のmiRNAとmtDNAに関連があること、それらを用いた治療反応予測の可能性を発見したことが取り上げられました。

## ■ 新聞・雑誌等

精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授	日経ドラッグインフォメーション (7月1日)	うつ病の治療薬に関する特集記事で、複数種の薬剤のそれぞれの特徴や処方ルールに関して、加藤准教授による解説が掲載されました。
衛生・公衆衛生学講座 甲田 勝康 研究教授	読売新聞 朝刊 (7月8日)	学校の健康診断での着衣について取り上げた記事で、甲田研究教授のコメントが掲載されました。
眼科学講座 山田 晴彦 網膜硝子体センター長	毎日新聞 朝刊 (7月29日)	山田センター長が大阪府眼科医会理事として登壇した「第16回目の健康講座」の講演内容が取り上げられました。
関西医科大学 木梨 達雄 学長	広報ひらかた令和5年8月号 (8月1日)	本学が、枚方市と健康、医療、福祉分野での連携に関する協定を締結したことが取り上げられました。
関西医科大学 齋藤 貴徳 副学長	読売新聞 夕刊 (8月1日) (8月5日Web掲載)	ランチやスイーツの情報を紹介するコーナーで齋藤副学長による枚方銘菓「呼人堂」の「あかつき」紹介が取り上げられました。
健康科学センター 木村 稜 理事長特命教授	読売新聞 夕刊 (8月29日)	ダイエットに関するコーナーで、木村理事長特命教授が提唱する「1日だけダイエット」が紹介され、自分に向いたヤセ行動を見つけることが重要とアドバイスする同教授のコメントが掲載されました。
眼科学講座 尾辻 剛 准教授	読売新聞 朝刊 (9月23日)	目の愛護デー(10月10日)にちなんで開催される「目のすべて展」に先立つ特集において、尾辻准教授による「緑内障」になる原因や症状、治療法に関する解説が掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

## 編集後記

振り返れば今年も猛暑酷暑と聞かない日はない夏でしたが、さてこれから深まりゆく秋はどのような様相を呈するのでしょうか。本誌でも徐々にコロナ禍以前のイベントが戻ってきました。過ごしやすくなった秋に、今一度感染対策に気を引き締めながらも、予定を立ててみるのもよいかもかもしれません。  
(M)

## 関西医科大学広報 Vol.63

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)  
FAX 072-804-2638

<https://www.kmu.ac.jp/>  
E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

令和5年10月27日(金)発行